

河村光陽童謡ファイル②

♪船頭さん

河村童謡の中には、ふるさとの景色や生活風景を想定して作られた旋律が数多く残されています。名曲「船頭さん」もその中の一つ。彦山川に生家が近かった光陽にとって、小舟の「船頭さん」は少年時代に見慣れた親しみ深い風景でした。このほか「山寺は」（興国寺）、「お祭りさん」（福智下宮神社）、「月夜」（故郷の田園風景）など、光陽が作曲する時に思い浮かべた豊かな自然は、今も変わらずこの町に残っています。



↑当時、米や石炭の輸送に活躍した川ひらた（五平太船）



↑光陽が音楽教師として赴任した当時の金田小。校庭の中央には昭和46年まで大きなくすの木があった。



かつて光陽が教師として音楽のすばらしさを伝えた金田小。子どもたちの息づかいやリズムは、今も昔も変わることはない。

感性磨いた郷土「福智」

故郷と河村光陽

日本の童謡史に輝かしい一時代を築いた作曲家・河村光陽。ここ生誕地・福智は、彼の音楽家としての原点であり、豊かな自然に包まれ感性を育んだ故郷です。後世に脈々と歌い継がれる多くの名曲を残した郷土の偉人。その生涯をたどり、彼の想いに触れたいと思います。



↑福智町出身の童謡作曲家・河村光陽（1897-1946）。生涯で千余曲を作曲し、独自の音楽的感覚と伝統的な日本音階による幾多の名曲を世に残した。

「子どもの世界を知らぬ人には本当の童謡は作り得ない」
光陽が童謡を作曲するうえで最も大切にしていたのが、子どもたちの息づかいや遊びのリズムです。最愛の3人の娘の存在や故郷の小学校での教員生活から、光陽は「子どもの世界」を身近に感じてきました。「子どもの世界を知らぬ人には本当の童謡は作り得ない」。これが光陽の持論でした。

村光陽が童謡を作曲するうえで最も大切にしていたのが、子どもたちの息づかいや遊びのリズムです。最愛の3人の娘の存在や故郷の小学校での教員生活から、光陽は「子どもの世界」を身近に感じてきました。「子どもの世界を知らぬ人には本当の童謡は作り得ない」。これが光陽の持論でした。

も伝統音楽や洋楽の研究を重ねています。さらに、子どもたちを音楽的感受度とらえ、旋律に生かすという努力と才能の持ち主でした。彼の代表作である「かもめの水兵さん」「赤い帽子白い帽子」などは、わらべ歌のリズムが効果的に盛り込まれているといわれています。今日まで愛唱され日本人の心の琴線に触れる河村童謡は、伝統的調べと子どものリズムに彩られています。

旋律の礎

河村光陽（本名・直則）は、明治30年8月23日、上野村で産声を上げました。「あのころ村で絹物を着ていたのは河村さんの家だけだった」というほど、代々地主を務める裕福な家庭で育ちます。雄大な福智山を背景に、清らかな流れをたたえる福智川、周囲に田園風景が広がるのどかな環境で、両親の深い愛情に包まれながら豊かな感性を磨きました。

河村家の隣にある「福智下宮神社」のお祭りでは、神楽が盛大に奉納されます。光陽はその演奏に聞きほれたといわれています。神楽のメンバーが河村家の屋敷に寝泊まりし、庭先で練習していたため、光陽はメンバーから喜んで尺八を習ったそうです。日本の伝統的旋律は、この少年時代に体得したといわれ、それが光陽のメロディーやリズム感、音楽家としての原点になっています。父を早く亡くした光陽は、母・ヒデ



「河村光陽先生生誕地記念之碑」は光陽生家の隣、福智下宮神社境内の鳥居そばにある。昭和60年に光陽生誕90年を記念して建立。このとき「ふるさと赤池町の童謡集」として、故郷を歌った9曲と著名な8曲を収録したカセットを作成。長女の故・順子さんが監修した。

ノの希望で小倉師範学校（現 福岡教育大学）に進学。民謡音楽やその旋法について深い知識を持つ作曲家・藤井清水と出会い、藤井が懇意にしていた野口雨情らのコンサートに参加するなど、音楽的に強い影響を受けます。大正7年3月、音楽教師となった20歳の光陽は、金田尋常小学校に赴任。ここで2年間、母校の子どもたちに音楽のすばらしさを伝えました。